

新社屋で事業拡大誓う

滝川 住宅リフォーム順調

「木の城」元社員創業の「しんせつ」

【滝川】昨年3月に経営破綻した木の城たいせつ(栗山)が建てた住宅のリフォームなどを行うため昨年、同社の元幹部や元社員らが設立した「しんせつ」(滝川、三浦清司社長)が順調に事業を拡大し、1日、市内泉町の新社屋で落成記念式を行った。(佐竹政治)

で1年でここまで来れた。今後は新築もやりたい」と感慨を込める。市経済部の若山重樹次長は「市内にも住宅があるので大変ありがたい。頑張ってほしい」と期待する。栗山町の木の城本社跡地に進出した創建連携していく。

(大阪)の新会社で、それぞれ販売と製材を手がける「きのしろ」「たいせつ」両社も「受注した新築、リフォームは部材加工した後、『しんせつ』に施工を発注します」(「きのしろ」広報)と今後、

「今後は新築も」

昨年4月創業の「しんせつ」(旭川)滝川営業所が同5月に独立した別会社。三浦社長は木の城時代、滝川の地域本社社長やたいせつ北匠社長を務めた幹部。「力を合わせて元社員が食べていける場をつくり、木の城のお客様に喜んでもらいたかった」と創業した。その後、江別、登別、函館に事業所を順次開設。昨年度はリフォームなど900棟を受注し、売上高は1億7650万円に上った。

木の城の住宅は、無落雪、百年住宅、道産材使用など独自技術のため、リフォームに他業者が参入するのは難しいという。同社によると、道内のリフォーム件数の半分程度を受注している。

記念式には関係者40人が出席し、節目を祝った。本社はこれまでのアパート住まいから、無落雪二階建ての新社屋に移った。三浦社長は「破綻したときは情けなくて泣いた。取引先を含めた皆の力

新社屋落成を祝った「しんせつ」の関係者ら

